令和３年度（２０２１年度）「ＳＯＳの出し方に関する教育」研究指定校事業研究報告書
（最終報告）

熊本県立玉名工業高等学校

１　研究テーマ及び目標

（１）研究テーマ

本校では令和２年度（２０２０年度）より「ＳＯＳの出し方に関する教育」の研究指定を受け、『自ら幸福な人生を構築できる玉名工業高校生の育成～「工業人たる前に良き人間たれ」の精神を土台に～』をテーマに本事業の研究に取り組んできた。高校生の時期に乗り越えられない困難や過大なストレス状態に直面したとき、ＳＯＳの声をあげやすい雰囲気作り、声を上げる人に寄り添い、その人に代わって信頼できる大人に発信できる力の育成を図ることは大変重要であり、本校生にも求められることである。特に本校のこれまでの教育活動を振り返り、現在ある本校の資産を活用し、生徒の自己肯定感や自己有用感を高め、よりよい関係づくりを推し進めようと、このテーマを設定した。

今年度はこの流れを継承しながら、本研究が一部の学年での取組であったものを全学年に広げ、学年主体で企画する活動、各部の活動を関連させる。また、全職員への意識向上を図り、学校全体でより発展させることを目指した。設定する研究テーマは、前年度のテーマと同様とする。

（２）目標

上記の研究テーマで研究を進めていく上で、令和２年度に掲げた目標に加え、目標を次のように設定した。

ア　乗り越えられない困難や過大なストレス状態に直面したとき、ＳＯＳの声を上げやすい雰囲気づくりをする。また、ＳＯＳの声を上げられず困窮する人に寄り添い、その人に代わって信頼できる大人にＳＯＳを発信できるつなぐ力の育成とともに、他者の気持ちを受け止める力（傾聴）の育成を図る。

イ　学校生活や社会生活を送る中で、対人関係や集団行動を円滑に営んでいくための技能を向上させる。

ウ　学校行事や校外活動を通して、自己肯定感・自己有用感の高い人材を育成する。

（３）研究仮説の設定

ア　仲間づくりや対人スキルの向上を図ることによりＳＯＳの声を上げる、また声を上げる人のサポートができる生徒が増えるであろう。

イ　友人の良さを考える活動により、不安や悩みに気づく感性を高めることができるようになっていくであろう。また、悩みを受け止め、必要ならば信用できる大人へつなぐことができるであろう。

ウ　ものづくりを生かした地域への貢献活動を通して、自己肯定感、自己有用感を高めることができるであろう。

２　研究概要

（１）研究仮説に対する具体的取組

研究仮説	具体的取組
①仲間づくりや対人スキルの向上を図ることによりＳＯＳの声を上げる、また声を上げる人のサポートができる生徒が増えるであろう。	・なかま作り研修　さいころトーク「ジョハリの窓」 ・仲間づくり研修・
②友人の良さを考える活動により、不安や悩みに気づく感性を高めることができるようになって	・ストレスマネジメント研修 ・傾聴研修

いくであろう。また、悩みを受け止め、必要ならば信用できる大人へつなぐことができるであろう。	・いじめ行動宣言策定 ・心のきずなを深める標語作成
③ものづくりを生かした地域への貢献活動を通して、自己肯定感、自己有用感を高めることができるであろう。	・実習等で製作した物品の地域への提供 ・各科によるものづくり体験の地域への提供

（２）昨年度の実践から見えた課題と今年度の実践の設定

・昨年度のＳＯＳの出し方に関する教育の実践において、困難が発生したときにＳＯＳを発信する力の育成を中心に１年生に実践を行った。１年間の実践により見えた本校の課題は、発信する相手の気持ちを受け止める力を持つことの重要性であった。本教育２年目である今年度は、「傾聴」を学ぶことを柱とした。

・今年度の１年生は、前年度の内容を引き継ぎながら、ポートフォリオや教科横断的に学ぶ方向で計画した。

・２年生は前年度に１年生で実践した、発信する力の育成の内容をベースに、「傾聴する力の育成」に力を入れることを課題とした。

・３年生に対して、コロナ禍での若年者の自死の増加、社会人の過労勤務やハラスメントによる自死が社会問題とされている状況から、社会人となる前にＳＯＳを出し方や、身近にＳＯＳを求める人がいるときの対処、自死の問題への意識を高めることを目標とした。

（３）学校行事における取組

ＳＯＳの出し方に関する教育　事業実施状況

日　程	学校行事としての取組	ものづくり･校外への取組	対象学年
４月　７日（水）	生徒理解研修（教育相談部）		職員
４月　９日（金）	玉工手帳ガイダンス（進路指導部）		１年生
４月１２日（月）	安全教育（ＫＹＴ）		２年生（機械科）
４月２３日（金）	荒玉大会中止　校内代替開催		全学年
４月２１日（水）、 ２３日（金）、２６日（月）	スクールサイン　利用説明 アプリ登録設定		全学年 （学年毎）
４月２６日（月）他	現代社会　授業　第１回 （青年期）		１年生
４月～３月（毎月１回）	情報教育（ネットワーク活用委員会）　生徒指導部		全学年
５月１７日（月）	アンケート（ＳＯＳ関連）１回目		全学年
	アンケート（教育相談部）１回目 心のケアの必要な生徒の調査		全学年
５月２５日（火）他	現代社会　授業　第２回 （なかま作り　さいころトーク）		１年生
５月２６日（水）	ＳＯＳの出し方に関する教育 「ポートフォリオ活用オリエンテーション（１年） 人権教育「コロナウイルスとハンセン病差別問題」（２年）		１年生 ２年生
６月　２日（水）	「わたしを語る」		１年生
６月　７日（月）	心のきずなを深める月間（各クラスＩＮＩへ説明会）生徒会 「心のきずなを深める標語」作成		全学年
６月　９日（水）	スクールロイヤー講演会 ※１，３年には後日講習		２年生
６月１６日（水）	「ジョハリの窓」		１年生
７月　８日（木）	人権教育 「就職差別」　各クラス担任 言わない書かない提出しない		３年生
７月１３日（火）	ＳＯＳの出し方に関する教育 校内研究授業「傾聴」 各クラス　２時間実施		２年生

７月２０日（火）	救命救急講習会（消防署）		部活動生徒
８月　６日（金）	玉工安全の日（安全教育） 危険予知トレーニング		全学年
	職員研修　（ＳＯＳ） 「話の聴き方～ゲートキーパー養成研修～」　講演　県精神保健福祉センター職員		全職員
８月３０日（月）	職員研修　（教育相談・ＳＯＳ） 「ＳＯＳを出しやすい教師になろう」　本校スクールカウンセラーによる研修		全職員
９月　２日（木）	職員研修 ①生徒理解研修 ②人権教育　全職員班別校内レポート研修会		全職員
９月２１日（火）	特別支援教育委員会 １学期の対象生徒支援状況報告と２，３学期目標設定等		関係職員
９月３０日（木）	職員研修 児童生徒の自殺予防に関する普及啓発協議会（Web）		関係職員
１０月　７日（木）	①ＳＯＳに関する教育 １年　ストレスマネジメント ２年　ヤングケアラー ②玉名工業高校 いじめ行動宣言 生徒会		１年生 ２年生 全生徒
１０月１０日（日）	エコ電レース大会		機械整備部
１０月１１日（月）	アンケート（教育相談部）２回目 心のケアの必要な生徒の調査		全生徒
１０月１３日（水）	インターンシップマナー講座		２年生
１０月１５日（金）	ＲＫＫ元気メッセージ取材		生徒会・部活動等関係生徒
１０月２２日（金）	体育大会		全生徒
１０月２７日（水）	命の教育（講演会）「命の大切さについて」慈恵病院		１年生
	インターンシップ激励会･打合せ		２年生
１０月２８日（木）	芸術鑑賞「あの夏の絵」		全生徒
１０月３０日（土）	玉工祭 各種　標語など展示	玉工祭 ものづくり実演・展示	各学年・各科
１１月　１日（月）	防災避難訓練		全学年
１１月　２日（火）	献血セミナー（日赤）		３年生
１１月　４日（木）	命の教育（性教育講話） まつおレディースクリニック 松尾州裕先生		３年生
１１月１０日～１２日	インターンシップ		２年生
１１月１０日（水）	ＳＯＳに関する教育 「気になる自画像」各クラス		１年生
		生徒研究発表会（工業化学科）	３年生
１１月１７日（水）	献血（第１回）		３年生
１１月１７日（水）	アンケート（ＳＯＳ関連）２回目		全学年
	進路講話		１年生
１１月２４日（水）	ＤＶ未然防止教育講演会		２年生
	ポートフォリオ		１年生
１１月２６日（金）	献血（第２回）		３年生
１１月２９日（月）	心のアンケート（生徒指導部）		全学年
１２月　３日（金）	ＳＯＳの出し方に関する教育 第１回公開授業モデル授業 「傾聴」（第１回） （電気科３年対象）		電気科３年生対象
１２月　６日（月）	ＳＯＳの出し方に関する教育 第１回公開授業 「傾聴」（第１回） （電子科３年対象）		電子科３年生対象

１２月　８日（水）	ＳＯＳの出し方に関する教育 第２回公開授業モデル授業 「傾聴」（第２回） （電気科３年対象）		電気科３年生 対象
	ライフプランニングセミナー 各学年　１時間実施		１年生 ２年生
１２月１３日（月）	ＳＯＳの出し方に関する教育 研究発表会 ・研究発表 ・第２回研究授業 「傾聴」（第２回） （電子科３年対象） ・講演「生徒のＳＯＳを受け取るためにできること」疋田忠寛先生 ・授業検討会（合評会）		全職員・他校職員 電子科３年生 対象 全職員・他校職員
１２月１５日（水）	主権者教育		全学年
１２月２４日（金）	いじめ防止対策委員会		関係職員
１月１２日（水）	薬物乱用防止講演（中止） 玉名警察署		３年生
２月１５日（火）	特別支援教育委員会 対象生徒支援状況報告と２，３学期目標評価等		関係職員
２月２２日（火）	地域美化活動		２年生
３月　７日（月）	いじめに関するアンケート		全学年
３月１４日（月）	いじめ防止対策委員会		関係職員
３月　　（予定）	人権教育 ・１年　部落史 ・２年　統一応募用紙の精神		１年生 ２年生
毎月	バイク通学生定例会		
年間		リヤカー製作 さすまた製作 飛沫防止シールド製作	３年生 生徒会

３　実践報告

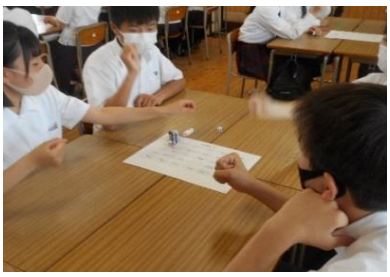
（１）１年生の取組

ア　教科横断的な取組

「教科（現代社会、家庭基礎、保健）による実践」

①現代社会　授業　４月２６日（月）他　（青年期）

②現代社会　授業　５月２５日（月）（すごろくトーク）



教科横断的な取組を、現代社会、家庭基礎、保健の授業で実践した。

・現代社会では、青年期の単元で青年期の意義、悩み、防衛機制等を学習し、自己理解・

自己分析につなげた。また、高校入学後の新しい環境で様々なことに不安を抱く本人たちをすごろくトークにより、他者理解等で関係作りを行った。生徒たちは積極的に会話を行い、「多くの人と話すことが出来てとても楽しかった」、「またやりたい」等の感想があがった。

・家庭基礎では、「自分らしい人生をつくる」の単元で実践した。ライフコースが多様化し、様々な暮らし方やライフスタイルがある。自分を見つめ、肯定的な自己概念を持ち、自分の人生や進路について考えを深めることを目的に、未来予想図を描く授業を実践した。自分のこれからの生き方とその将来設計のために、今やるべきことについて考えた。

・保健では、「適応機制」、「心身相関とストレス」、「心の健康のために」の内容で取組を実施した。生徒は心や体の成長と共に、既に学んだ青年期の悩みや将来の人生設計を振り返ることで、他教科との関連性を意識付けすることができ、学習内容を深めることができた。

イ　５月２６日（水）　　ＳＯＳの出し方に関する教育①

「ポートフォリオ活用のオリエンテーション」（ＬＨＲ）

ポートフォリオについてのオリエンテーションを行い、今後様々な学校行事や教育活動を通して自分自身を振り返り、記録をすることで自己肯定感や自己有用感を養い、自己理解につながるように行った。

※昨年度から本校ではポートフォリオの活動記録表作成を導入した。３年生になって初めて行った当時の３年生は、１年次からの活動を振り返り記録をすることは大変だったと実感しており、１年生から活動実績を記録させるなど意識付けを図ることにした。

ウ　６月２日（水）　　ＳＯＳの出し方に関する教育②

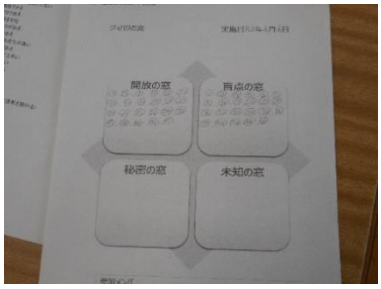
「わたしを語る」（ＬＨＲ）

・各クラスの担任、副担任が、自身の高校時代の青年期を柱に、悩んだことや苦労話、挫折等の話を行った。生徒に教師自身を知ってもらい、教師の自己開示により生徒との関係が構築され、距離が近づく契機となったと感じている。

・当初の計画では宿泊研修で実施する予定であったが、中止となったためＬＨＲの時間に実施した。

エ　６月１６日（水）　　ＳＯＳの出し方に関する教育③

「ジョハリの窓」（ＬＨＲ）

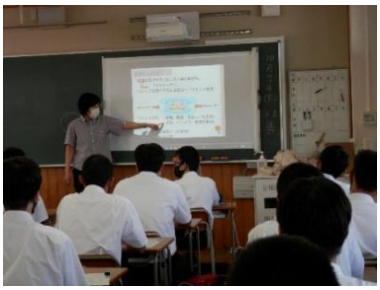
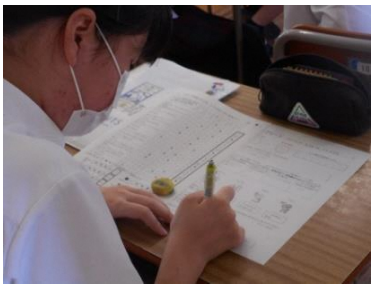


・他者理解とともに他己分析（他人の意見を取り入れる自己分析）により、自己理解のずれに気づくことや自分では気づかなかった新しい自己の発見を行った。また、生徒が生

きる主体としての自己を確立する上で核となる自分自身に固有の選択・判断基準、人生観等を養った。

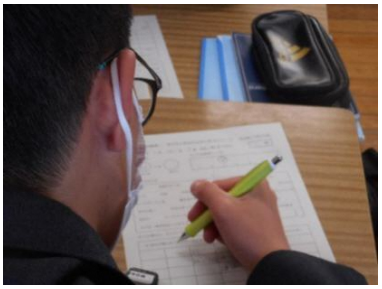
・生徒たちの感想では、「自分はそのように思われていたんだ。知らなかった」「自信が持てた。嬉しい」等があり、自らの価値観とともに他者の価値観を尊重することの大切さを学習した。

オ　１０月７日（木）　　ＳＯＳの出し方に関する教育④
「ストレスマネジメント」（ＬＨＲ）

生徒各自が自己のストレス状態について理解し、ストレスの具体的な対処法を身につけることを目標にした。ストレスを軽減し、自己をコントロールする方法を実践した。

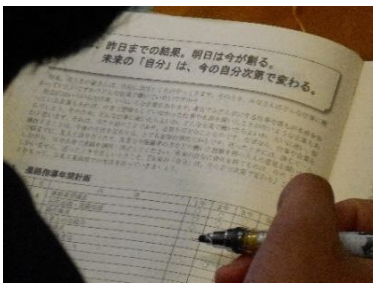
カ　１１月１０日（水）　ＳＯＳの出し方に関する教育⑤
「気になる自画像、ポジティブな言葉掛け」（ＬＨＲ）



・１学期に現代社会の授業で「すごろくトーク」や１学期のＬＨＲで「ジョハリの窓」を行っている。これらは、傾聴、相談、救援する存在が身近に存在することを認識させることを目的とした。

・入学から半年経ち、お互いの関係もより深まった中の実施で、相手をポジティブに表現するための言葉の選択や比較を班活動で行った。さらにポートフォリオなどの記録も含めて他者の経験や意見を聞き、お互いの立場を理解し、高め合うことのできる存在がいることを学んだ。

キ　１１月１７日（水）　進路講話
「進路指導主事による１年生の考動力（考え行動する力）について」



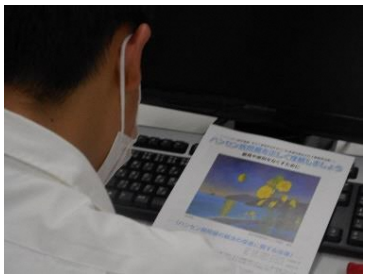
様々な視点から自己理解や他者理解に取り組んでいるが、進路や将来、キャリア形成の視点から人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見出していくことを学び、人間関係形成、社会形成能力、自己理解、自己

管理能力等を身に付け伸ばすことを目的としている。今回の講話では、７つの習慣と自己管理についての再確認、キャリア形成に必要な４つの能力を自己評価し、自己理解を行った。

（２）２年生の取組

ア　５月２６日（水）　　人権教育

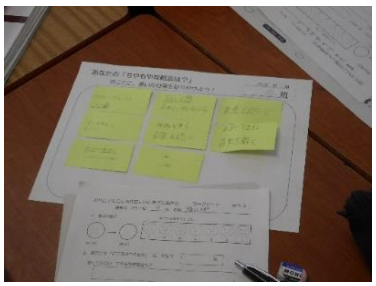
「コロナウイルスとハンセン病差別問題」（ＬＨＲ）



過去に行われたハンセン病患者の隔離政策による差別の問題を、歴史的な経緯から学んだ。現在問題となっているコロナウイルス罹患者への差別問題との関連性をディスカッションを通して考え、正しい知識を持つことの重要性を学んだ。

イ　７月１３日（月）　ＳＯＳの出し方に関する教育①　　校内研究授業

「だれにでもこころが苦しいときがあるから」（傾聴）　　各クラス



１年生で実施した、ＳＯＳを発信する力をさらに一歩高める実践を行った。

今回は、自らＳＯＳを発信する大切さと同時に苦しいときの対処法のひとつとして「信頼できる人に話を聴いてもらう」ことがあることを知り、相手の気持ちを楽にする聴き方「傾聴」スキルはロールプレイを実践した。また、生涯を通じて危機に陥った際に「相談すること」の重要性への理解を深めた。

ウ　１０月７日（木）　ＳＯＳの出し方に関する教育②

「『ヤングケアラー』って知っていますか」（ＬＨＲ）

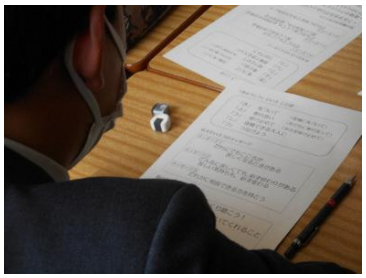
２年生の２学期は、社会問題にも目を向け、「ヤングケアラー」の問題を取り上げた。テレビのドキュメンタリー番組を視聴し、家族の介護などで声を上げることのできない若者の存在を多くの生徒が知った。事前アンケートでは、本校にもヤングケアラーの生徒がおり、これまで学んだ１年生や１学期の「傾聴」の取組が、自ら声を上げることや気づいた人のサポートの両面について生かせないか、深く考える契機になった。

（３）３年生の取組

ア　１２月　３日（金）、６日（月）

第１回　「傾聴」（基礎編）

「こころが苦しいとき『きようしつ』を意識しよう」～心の危機を乗り越えるには～



班ごとに話し合い　「きようしつ」ということば　　班ごとに傾聴を実践

２年生が１学期に実施した傾聴の学習内容を、『きようしつ』ということばを主要なキーワードとして再編集し、心が苦しいときの対処を意識させる授業とした。

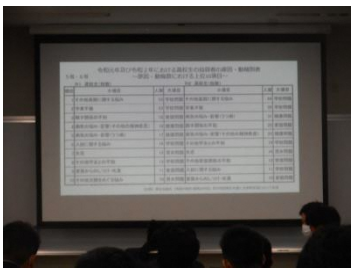
イ　１２月　８日（水）、１３日（月）

第２回　「傾聴」（社会問題から重要性を考える）　研究授業　　（資料１）

「人の心に寄り添える、よりよい社会を目指して」

１２月１３日（月）に実施した本校での研究発表会において、研究授業は電子科３年で実施した。県内の県立学校の職員が研究授業を見学した。

８日は他のクラスで先行実施した。



授業はクラス担任が実施　　自死の原因について　　各班の発表は ICT 活用

各班の原因調査を発表　　視聴覚室にも中継配信

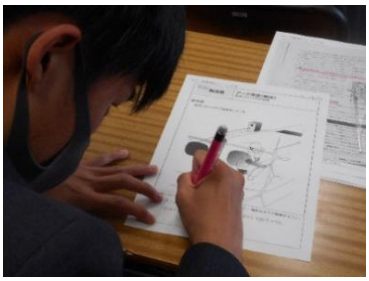
授業はクラス担任が実施した。初めの説明では全国の自殺者数の推移等を知り、ＳＯＳを発信することの大切さを理解した。事前にクロームブックを用いて各班で調査した内容を、代表が発表した。

ＳＯＳの発信をする大切さを身に付け、そのＳＯＳを受け止め寄り添える大人になり、よりよい社会づくりに貢献していくことの大切さを理解させていきたいという、担任の思いを生徒に語りかける授業であった。

（４）各学校行事の取組

ア　４月１２日（月）　　安全教育

「危険予知トレーニング」（ＫＹＴ）



今年度の実習の開始を前に、安全教育として「危険予知トレーニング」を実施した。職場や作業の状況の中に潜む命に関わる危険要因とそれが引き起こす現象を、職場や作業の状況を描いたイラストシートを使って、問題点を気づき、対処方法とともに命の大切さを考えた。機械科２年生では継続的にワークシートを用いた安全教育を継続している。

イ　４月後半　　スクールサイン　設定　　全学年

学年ごとに体育館にスマートフォンを持参のうえで集合させ、スクールサインと健康観察Ｆｏｒｍｓ入力の趣旨を説明し、設定を行った。

ウ　４月～３月　情報教育（ネットワーク活用委員会）　生徒指導部　全学年

生徒指導部では、ネットワーク活用委員会の生徒を集合させ、昨年度から毎月１回程度情報教育を行っている。主に県からの情報教育に関する資料を配付し、内容を説明し、委員から終礼などで生徒へ周知させると共に、資料をクラスに掲示している。

特に、インターネットは全世界の人がだれでも閲覧できることや個人情報の漏洩問題とその影響など、ネットの利用の危険性を周知し、未然防止の啓発を行い、継続して指導を行っている。

配付資料（５月）

エ　６月７日（月）　　心のきずなを深める月間

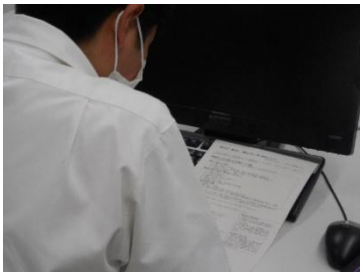
「心のきずなを深める標語」作成など　（各クラスＩＮＩへ説明）生徒会　　全学年

本校の生徒会活動として、俳句の五七五調でＩＮＩ生徒へ作成を依頼し全校生徒が標語作成を行った。いじめ防止を目的とし、作成した標語の一部は校内に掲示して啓発を行った。

オ　６月９日（水）　　スクールロイヤー講演会　　２年生
「いじめ防止について」　　講師　飯田法律事務所　弁護士　飯田　親喜　様

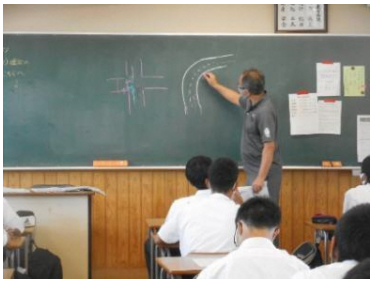
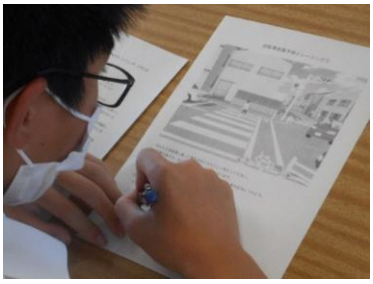
いじめにおける、ＳＮＳの使用についても法律の観点からどのように判断するのか、講演を聴いて考えた。「ストレスの度合いをコップの水に例えて、最後の一滴の水であふれてしまう。それが、日ごろの何気ない一言かもしれない。」という言葉が多くの生徒にとって印象的であったようである。
※コロナ感染防止対策のため、２年生にのみ講演を実施したが、１，３年には後日、人権主任から復講を行った。

カ　７月８日（水）　　人権教育
「就職差別について（言わない・書かない・提出しない）について」　　３年生



過去の就職差別の事例や問題点を知り、現在も行われていることを学んだ。
実際の就職試験において違反質問や、違反質問を受けた際の対応について問題点を理解した。直後から始まる面接練習においても生かすことができた。

キ　８月６日（金）　　玉工安全の日（安全教育）
「危険予知トレーニング」　　全学年　各クラス

毎年、玉工安全の日には、交通安全の集会が開催されるが、体育館内の密を避けるため、各クラスにて交通安全教育用ワークシートを用いて実施した。
自転車や車が交差点で動きを予想する訓練を通して、自分と相手の命をどのように守るのかを考えた。

ク　８月６日（金）　　職員研修　　ＳＯＳの出し方に関する教育
「話の聴き方　～ゲートキーパー養成研修～」
講師　　熊本県精神保健福祉センター　　甲木　咲衣　様
職員のスキルアップを目的として、ゲートキーパー養成を主体に本校の現状に合わせた研修を実施した。職員は近年の自殺の現状、傾聴方法、関係機関へのつなぎ方を

学んだ。

【職員の感想】

○　本研修を終え、基本的なことから実践例まで幅広く学ぶことができました。聞き方の基本「か・き・く・け・こ」では、説明と具体例があり、今後の教育活動で、「意識」して取り組みたいと思いました。ＤＶＤ実践例を見て、その後の説明補足を踏まえて悩んでいる生徒などへの対応関係機関へつなぐことなど、今後必要となることを多く学べる研修となりました。

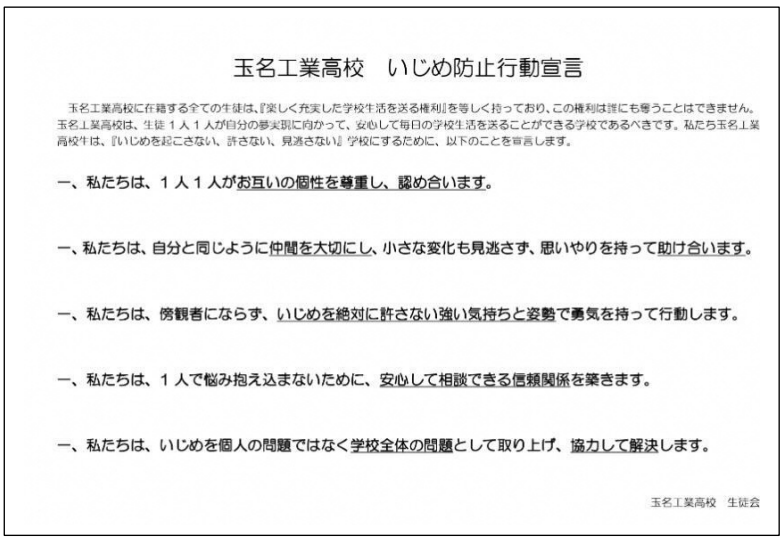
○　今回話の聞き方に特化した研修でしたが、大変参考になりました。自分のこれまでの生徒対応を振り返ったとき、多少上から目線で、寄り添うという大切なところが微妙に足りていなかったことを反省しました。常に答えありきの相談姿勢では真実は見えてこないし、目の前にいる相談相手に適切なアドバイスは返しきれないと思いました。相手の現状や気持ちを十分に理解することができて、初めて次のステップにつながるということを実感しました。

ケ　８月３０日（月）　　職員研修　　本校スクールカウンセラーによる研修
「ＳＯＳを出しやすい教師になろう」　　講師　三津家　律子　先生
カウンセリングシートに記入しての傾聴、受容、共感の練習、困っていることのカウンセリング演習などの講義を受け、教師の意識改革を図った。

コ　９月２日（木）　　職員研修　全職員対象班別レポート研修会（職員向け人権教育）
これまでの教員生活で関わった生徒に関するレポートを各自で作成し、班別に発表する取組を行った。
全職員が取組をＡ４用紙１枚のレポートにし、教育実践を振り返り、お互いに意見を交換するなど、職員間の仲間づくりの機会ともなった。

サ　１０月７日（木）　　「玉名工業高校　いじめ防止行動宣言」決定（生徒会）ＬＨＲ

生徒会で『玉名工業高校　いじめ防止行動宣言』を作成し、生徒会長が放送で行動宣言を読み上げ、いじめ防止の啓発活動を行った。



玉名工業高校　いじめ防止行動宣言

玉名工業高校に在籍する全ての生徒は、『楽しく充実した学校生活を送る権利』を等しく持っており、この権利は誰にも奪うことはできません。玉名工業高校は、生徒１人１人が自分の夢実現に向かって、安心して毎日の学校生活を送ることができる学校であるべきです。私たち玉名工業高校生は、『いじめを起こさない、許さない、見逃さない』学校にするために、以下のことを宣言します。

一、私たちは、１人１人がお互いの個性を尊重し、認め合います。

一、私たちは、自分と同じように仲間を大切にし、小さな変化も見逃さず、思いやりを持って助け合います。

一、私たちは、傍観者にならず、いじめを絶対に許さない強い気持ちと姿勢で勇気を持って行動します。

一、私たちは、１人で悩み抱え込まないために、安心して相談できる信頼関係を築きます。

一、私たちは、いじめを個人の問題ではなく学校全体の問題として取り上げ、協力して解決します。

玉名工業高校　生徒会

生徒は密を避けるために、全校集会ではなく教室で配布された行動宣言のプリントを読みながら、校内放送を聞く形式での実施になった。

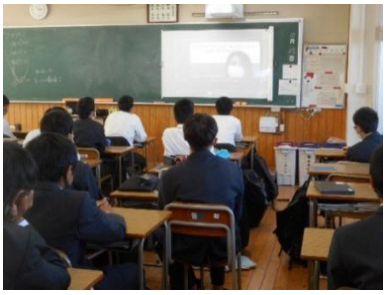
シ　１０月１８日（月）ＲＫＫ「元気メッセージ」取材

各部活動や生徒会、ものづくりなど、本校で力を入れて取り組んでいる生徒たちに、２２組の１５秒ＣＭの取材が行われ、実績や夢をアピールした。出演は自己肯定感を高めることになり、多くの生徒の自信につながったと考える。放送は１１月平日の朝に１か月間行われた。

ス　１０月２７日（水）　命の教育講演会　　１年生

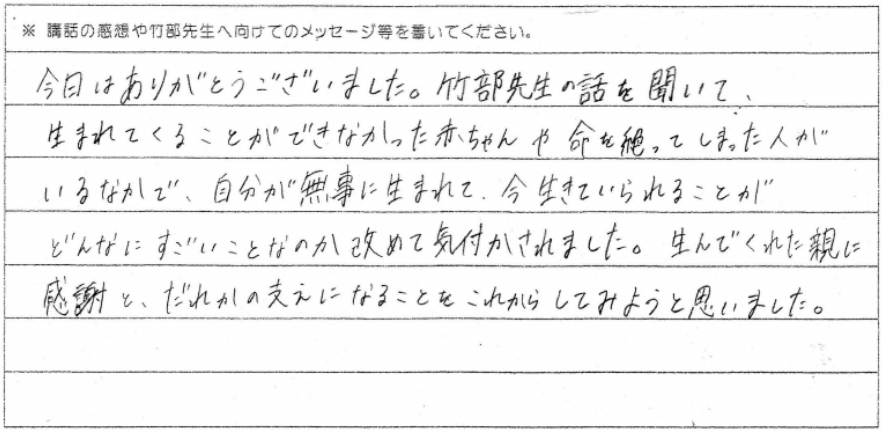
「未来あるみなさんに伝えたいこと　～産婦人科の現場から～」

講師　　医療法人　慈恵病院　看護部長　竹部　智子　様



感染防止のため、会場には講師と保健委員、各教室ではプロジェクタでのオンライン講演を実施した。感想文では、命の尊さや自分が今ここにいる事への感謝の気持ちを持つ生徒が多く、いのちの大切さの理解が進んだ。

【生徒の感想】



※ 講話の感想や竹部先生へ向けてのメッセージ等を書いてください。

今日はありがとうございました。竹部先生の話を聞いて、生まれてくることができなかった赤ちゃんや命を絶ってしまった人がいるなかで、自分が無事に生まれて、今生きていられることがどんなにすごいことなのか改めて気付かされました。生んでくれた親に感謝と、だれかの支えになることをこれからしてみようと思いました。

セ　１０月３０日（土）　玉工祭　　各種標語・ポスター展示

①いじめ根絶　標語

標語　優秀賞　　土木科１年　　河野　優羽　さん **「いかんばい」なんでそぎゃん事　いいよっと**

いじめ根絶標語展示

②いじめ根絶　ポスター

優秀賞　工業化学科１年　砂川　昌葉　さん

いじめ根絶ポスター展示

各クラスから代表が作成した作品を展示し、投票により、入賞を決定した。

ソ　１１月２日（火）　「献血セミナー」（日赤）　３年生

日赤から血液センター職員によるオンラインで講演が行われ、献血の重要性や命をつなぐ役割を理解した。

献血への生徒の関心が高く、このセミナーの後、本校で行われた献血は希望者が多かったため２回に分けて実施された。

タ　１１月４日（木）　命の教育（性教育講話）　３年生

「高校生を取り巻く性の諸問題について　～性に関する質問何でもお答えします～」

講師　まつおレディースクリニック　院長　松尾　州裕　先生

事前に産婦人科医への質問事項を集め、質問に答える形で講演が行われた。素朴な質問が多く、生徒自身が将来パートナーとの関係を大切にする内容など、命の大切さを身近に感じられる講演であった。

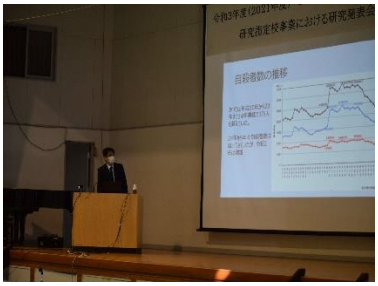
チ　１２月１３日（月）　　「ＳＯＳの出し方に関する教育」研究発表会

当日の研究発表会では、研究発表、研究授業と共に、外部講師による講演会が行われた。

講演「生徒のＳＯＳを受け取るためにできること」

九州ルーテル学院大学　人文学部心理臨床学科講師　　疋田　忠寛先生

主な内容は、「自殺の現状について」、「若者の自殺の現状」、「生徒たちのＳＯＳを受け止めるために」で行われた。スクールカウンセラーとして学校との関わり、自死遺族支援に関わられた経験を基に、自殺は複合的な要因があること、受容傾聴の会話等について解説された。研究発表会は県内の県立学校職員を対象として、来校または、オンラインの参加となった。本校職員も参加した。



５　ものづくり

（１）１０月７日（木）　リヤカーを岱明中に寄贈

（熊本日日新聞・ひまわりテレビ取材）

岱明中学校へ贈呈　　新聞とテレビの取材　　トラックに積み込み

今年度、機械科の実習で製作したリヤカー２台を地元の岱明中学校に寄贈した。同時にマスコミからの取材を受け、製作した生徒は製作したものを使ってもらえることへの充実感と喜び（自己有用感）を感じ、満足気であった。

（２）足踏み式アルコール噴霧器の製作・寄贈

ア　製作

溶接作業　　パイプ曲げ作業　　完成品

本校生徒の技術力や工業高校の魅力発信のために、約１年間かけて、足踏み式アルコール噴霧器の製作を行った。３年生の課題研究や実習で工業科５科による協同製作をし、２月に２５台を完成させた。完成後は希望される地元の中学校を中心に、小学校や公共施設へも寄贈する。

イ　寄贈

２月２８日（月）玉名中学校に寄贈

（ひまわりテレビ、玉名市「広報たまな」取材）

寄贈した噴霧器と生徒　　寄贈前の設置調整　　中学校生徒へ寄贈

製作に中心になった機械科３年生２名が、玉名中学校を訪問して完成した製品を寄贈した。２名の生徒は玉名中学校の卒業生で、中学校後輩の生徒会生徒とも交流し、ものづくりへの思いを伝えた。保健委員長の中学生からは、大切に使用したいとのお礼のことばがあった。

寄贈に参加した生徒は、出身中学校への懐かしさとともに、自分たちの製作した作品を後輩たちに使ってもらえるという喜びがあった。一年間のものづくりへの取組みへの自信（自己肯定感）を感じていた。翌日に製作に関わった他の生徒にも伝え、関係生徒で思いを共有した。

地元のケーブルテレビでは、３月１日にこの模様が地域の話題として放映された。また、玉名市の「広報たまな」５月号に掲載される予定である。

６　アンケート調査の事前・事後の比較　　（資料２）

アンケート調査は全学年の生徒を対象とした。年２回実施し、本事業の事前・事後の比較を行い、自己肯定感などの変化を検証した。

（１）**全学年**におけるＲ２．６月からＲ３．１１月の結果の推移より

ア　５％以上の上昇

６　周囲の役に立っていると思うことはあるか。（１０％）

９　自分のことが好きか。（７％）

10　得意なことや自慢できることがあるか。（７％）

11　自分のことを大切な人だと思うか。（８％）

12　学校の中で命のすばらしさや大切さを感じることはあるか。（６％）

14　これまでに、ものづくりをして人の役に立ったと感じたことがあるか。（１０％）

イ　５％以上の下降

なし

（２）**１学年**におけるＲ３．５月とＲ３．１１月の結果の推移より

ア　５％以上の上昇

11　自分のことを大切な人だと思うか。（５％）

12　学校の中で命のすばらしさや大切さを感じることはあるか。（６％）

14　ものづくりをして人の役に立ったと感じたことはあるか。（５％）

イ　５％以上の下降

なし

（３）**２学年**におけるＲ２．６月とＲ３．１１月の結果の推移より

ア　５％以上の上昇

６　周囲の役に立っていると思うことはあるか。（７％）

９　自分のことが好きか。（８％）
10　得意なことや自慢できることはあるか。（７％）
11　自分のことを大切な人だと思うか。（１３％）
12　学校の中で命のすばらしさや大切さを感じることはあるか。（１０％）
14　これまでに、ものづくりをして人の役に立ったと感じたことがあるか。（８％）

イ　５％以上の下降

15　高校在学中にものづくりで役に立ってみたいと思うか。（１０％）

（４）**３学年**におけるＲ２．６月とＲ３．１１月の結果の推移より

ア　５％以上の上昇

２　つらい思いをしたときに、誰かに相談できているか。（８％）
５　周囲の人にほめられたり、認められたりしたことはあるか。（８％）
６　周囲の役に立っていると思うことはあるか。（２０％）
９　自分のことが好きか。（１３％）
10　得意なことや自慢できることがあるか。（９％）
11　自分のことを大切な人だと思うか。（９％）
12　学校の中で命のすばらしさや大切さを感じることはあるか。（５％）
13　学校の授業や活動を通して学んでいることや考え方が、社会人になってから活用できると思うか。（６％）
14　これまでに、ものづくりをして人の役に立ったと感じたことがあるか。（２２％）

イ　５％以上の下降

なし

（５）Ｒ３．５月とＲ３．１２月における学年間の結果の比較

ア　１１月における顕著な結果の項目（１年、２年、３年の順での数値）

６　周囲の役に立っていると思うことはあるか。（３年　74% →、85%）
８　周囲の人をほめたり、認めたりしたことはあるか。
（１年 98% → 97%　２年 96% → 97%　３年 97% → 99%）
９　自分のことが好きか。（３年　71% → 79%）
10　得意なことや自慢できることがあるか。（３年　77% → 83%）
11　自分のことを大切な人だと思うか。（１年　74% → 79%）
12　学校の中で命のすばらしさや大切さを感じることはあるか。
（１年　79% → 85%　　２年　81% → 88%）
14　これまでに、ものづくりをして人の役に立ったと感じたことがあるか。
（３年　73% → 81%）
15　高校在学中にものづくりで役に立ってみたいと思うか。
（１年 98% → 98%　２年 96% → 97%　３年 98% → 99%）

７　仮説の検証

ア　仲間づくりや対人スキルの向上を図ることによりＳＯＳの声を上げる、また声を上げる人のサポートができる生徒が増えるであろう。

具体的な取組：ポートフォリオ、仲間づくり研修

・質問２「つらい思いをした時に相談できる」について、今年度全学年では５月、１１月で８３％と横ばいであったが、学年により差が大きかった。１年は今年度２回とも７５％で横ばいであった。２年は８６％（R2.６月）から８５％（R3.11 月）とほぼ変わらず、３年は８１％（R2.６月）から８９％（R3.11 月）へと上昇している。
・１年は入学年度であったため、つらい思いをする機会が少なかったのではないかと考えられる。また、昨年入学の２年よりも１１％少なかったのは、入学直後の休校期間がなかったため、なかま作りや対人スキルの向上を図ることができたと考えられる。

・３年は、２年次の６月と今年度の１１月を比較すると、８％の上昇が見られた。これは、最終学年として部活動や進路実現等を通して、悩みを相談する機会を得たからではないかと考えられる。

イ　友人の良さを考える活動により、不安や悩みに気づく感性を高めることができるようになっていくであろう。また、悩みを受け止め、必要ならば信用できる大人へつなぐことができるであろう。

具体的な取組：ソーシャルスキルトレーニング研修

・当初予定していた「ソーシャルスキルトレーニング研修」は、本校の実態を踏まえて再検討を行い、「傾聴」に切り替えた。
・質問３「つらい思いをしたとき相談できる人はいるか」の割合が全学年とも９０％以上であった。特に２、３年生で上昇の傾向が見られた。実際に悩みを相談した生徒が増えたことによるものと思われる。
・質問８「周囲の人にほめられたり、認められたりしたことがある」について、もともと全学年で高い割合であったが、さらに１００％に近づいている。特に３年生ではこの傾向が顕著に見られた。この２年間で自己肯定感を高めたり、他者理解を深めるための取組の成果であると考えられる。

ウ　ものづくりを生かした地域への貢献活動を通して、自己肯定感、自己有用感を高めることができるであろう。

具体的な取組：実習等で製作した物品の地域への提供
各科によるものづくり体験の地域への提供

・昨年度は休校期間が長期間にわたり教育活動の制限を余儀なくされたが、今年度は感染防止対策を行いながら可能な限り、実習や課題研究に取り組むことができた。
・質問１４「ものづくりをして役に立ったことがあるか」に対して全学年では６４％（R2.５月）から７４％（R3.11 月）と１０％の上昇が見られた。学年進行とともに、上昇傾向が見られ、今年度１１月では、１年６９％、２年７１％、３年８１％となっている。
・特に３年生では、５９％（R2.５月）から８１％（R3.11 月）と２２％もの上昇が見られた。これは２年での実習を経て、３年での課題研究で製作したリヤカーを中学校へ提供し、文化祭におけるものづくり提供など、地域貢献を行えたことが要因ではないかと考えられる。
・玉工祭において、機械科では扇子やキーホルダー、電気科では自分の写真入りのキーホルダー製作、電子科では心が安らぐＬＥＤ照明の製作、工業化学科では地域の子どもたち向けに人工イクラ製作、土木科では木工による椅子など製作した。これらを実際に来場者と共に製作、提供し喜ばれた。このような取組を通じて、生徒は自己肯定感や自己有用感を高めることができ、ものづくりを通しての一人一人の生徒の自信につながったものと考えられる。

８　研究発表会・研究授業の参加者（他校職員）アンケート結果より　（R3.12.13 実施）

【質問１】*本日の研究発表会をご覧になった御意見・御感想をお書き下さい。*

○　生徒が自分たちで資料を分析し課題に対して向き合っている姿がとても印象的でした。生徒に「傾聴」を学ばせることは難しいと思っていたが、必要なことであるし、十分にできると感じました。

○　研究授業では、学習内容も大変参考になりましたが、さらに一人一台端末の利用についても勉強になりました。スライドに出してある情報が個人の端末にも配られているので、口頭での発表も可視化でき、理解を深めることができると感じました。生徒さんも積極的に授業に参加し意欲や関心の高さを感じました。自殺の現場や原因・同期を調べ

学習することで、ＳＯＳを発信することの大切さを改めて実感する動機づけになると思いました。

○　とても素晴らしい研究発表を見せていただき、本当にありがとうございました。特に研究授業はこれまで見たことのない内容で、生徒たちの授業を受ける様子や先生の思いが伝わり感動しました。私も心の成長が一番大切だと思って、日々指導を行っているのでとても勉強になりました。

【質問２】*本校の「ＳＯＳの出し方に関する教育」に関する御意見をお書き下さい。*

○　授業で教科横断的な取り組みをし、学校行事や ＬＨＲ、人権学習など多方面から生徒のＳＯＳ をキャッチするために、組織的に系統立てて取り組んでおられる実践例を拝聴し、大変勉強になりました。
　特に、生徒会による”いじめ防止対策”については、生徒が自ら考え、ルールづくりや新たな仲間づくりの提案など、自分のこととして物事を捉え、行動に移すことができると感じました。 本校では、交通安全講話や情報モラル講習会を生徒会主催で実施し、生徒が自ら考え行動する機会をつくり始めました。今後も本日傾聴した実践を活用できるよう取り組みたいと思います。

○　「研究の概要報告」説明を聞き、学校全体で取り組む体制が大変参考になりました。ほとんどの生徒さんが４月から（高校卒業後）社会人となる１０代に「ＳＯＳの出し方」を学ぶ機会があることは、とても教育的であると感じました。

○　年間通して、授業や講演会など多くの学ぶ機会が設けられており生徒さんがＳＯＳを出しやすい環境が保たれていると感じました。
　またこのことが生徒さんの自己肯定感の高まりにも繋がっているように思いました。どのような社会を目指していくべきか社会の担い手としての意識が高められていると思います。

９　研究のまとめ

（１）２年間の本研究の効果

　１年生では、昨年から困難に直面したときに、自ら声を上げることができることを目的に実践を行っている。「気になる自画像」では、自分のいいところを見つけ、プラスに表現する姿勢と、「ストレスマネジメント」の習得は生徒間の人間関係構築をするうえで基本になっていることが見える。その根拠は、現２年生の質問１１「自分のことを大切だと思える」が７４％（R2.６月）から８７％（R3.11 月）に１３％上昇していることに表れていると考える。現１年生は質問１１で７４％（R3.６月）から７９％（R3.11 月）の５％上昇であるが、今年度の伸びが大きい。これは１年生時に授業の実践とともに玉工手帳の活用による、お互いの褒め合いの効果も考えられる。
　現１年生はポートフォリオや教科間連携など、新しい取組を行っているが、来年度以降も「気になる自画像」と「ストレスマネジメント」を中心にした流れを継続させたい。

（２）自己肯定感や自己有用感を高めるものづくり

　今年度は、昨年度行った災害ボランティア活動のような取組を行うことができなかった。昨年度は年度末まで、後半までコロナ対策グッズ製作に関わる生徒も多かったが、実習や文化祭でものづくりの場面で喜びを得る機会が多かったことが、質問１４「ものづくりをして役に立ったと感じた」の上昇につながったものと考えられる。
　アルコール噴霧器の製作・寄贈では、使う人の気持ちや、製品の強度、安全、精度を考えながら製作した。寄贈した製品は複数年使用していただけると思われる。製品に対し

て思い入れのあるものづくりは、アンケート結果に反映できなかったが、関わった生徒自身の長期に亘る自己肯定感や自己有用感の継続につながる可能性が高いことが、寄贈後の生徒たちとの会話から見えてきた。このような製品への思い入れを持つことのできるものづくり教育を、今後も実践していきたい。

（３）教科横断的授業の取組

今年度の取組を通して、ＬＨＲに費やした時間は多かったが、教科横断による検討を行った結果、現代社会、家庭科、保健の授業で取り組むことができた。

これから教科横断による取組をさらに進めていく中で、学校全体で取組を進めていくことができると考える。工業高校においては、特にものづくりが有効であることがアンケート調査からも結果として出ており、ものづくりと各教科の連携ができれば、教科学習の深まりと共に製作物の技術が自信へとつながる可能性が高いと考える。

今年度は機械科実習において、年間を通してＫＹＴを実施した。安全教育から命を考える教育、自らＳＯＳを出すことができる教育へとつなげることが、教科横断的授業になるのではないかと機械科職員が自発的に考えての実施であった。学校全体で取り組むことを全職員で意識しながら、さらに多くの教科・科目での実践の可能性を探りたい。

（４）社会問題への関心を持たせること

２年生では「ヤングケアラー」の問題を扱い、３年生では、統計上の自殺の数値を示した。２年生までの仲間づくりを中心とした取組では、「自殺」「自死」のことばは使用しなかったが、段階的に学ぶ中で３年生ではあえて、研究授業においてことばを使用した。

研究授業だけでなく社会を構成する一人として、今後は社会人の抱える過労やハラスメント等が原因による自殺、コロナ禍による影響にも関心を持ち、生徒自らが社会人になってそのような場に遭遇した時に自らＳＯＳを発信したり、またＳＯＳを発信している人に気づき、対応ができる人材となってほしいと願っている。このことが、「工業人たる前に良き人間たれ」の精神につながり、自ら幸福な人生を構築できる人材として社会で活躍することにもつながるものと考える。

別添資料

【資料１】

「ＳＯＳの出し方に関する教育」学習指導案

日　　時：令和３年１２月１３日（月）
場　　所：玉名工業高等学校　工業基礎実習室
時　　間：５限目　１３：２５～１４：１５
実施クラス：電子科３年
（男子３４名、女子６名）
授　業　者：教諭　山名　耕平

１　題材名　傾聴「人の心に寄り添えるよりよい社会を目指して」

２　題材について

（１）題材観

厚生労働省「自殺の統計」によると国内における高校生の自殺者数の推移は、この５年間のうちで年々増加の傾向をたどっており、特に令和元年から令和２年にかけては１００名近く増加している状況にある。原因・動機については、学校問題から健康問題、家庭問題と多岐にわたっている。このようななかで自殺を防止していくためには、ＳＯＳを発信していくこと、またＳＯＳを発信しやすい環境を創ることは喫緊の課題である。

（２）生徒観

電子科３年は素直で明るいクラスであり、授業中は積極的に参加する姿勢が見られ、発問に対しても内容を考えて、しっかりとした受け答えをすることができる。グループ活動では自身の意見を主張するだけでなく、他人の意見も尊重する様子も見られ、多様な視点から物事を考える力を持つ生徒が多い。若干名であるが、高校生活を送る中で学校生活や家庭環境の悩みを抱え、教育相談を受けたことで前向きに学校生活を送る生徒も存在する。アクティブラーニングや少人数での活動などを積極的に取り入れ活気のある学習環境にすることで、より深い学びにできるものと考える。

（３）指導観

近年、職場におけるパワハラやセクハラ、過労などが原因でうつ病の発症や自殺をすることが社会問題となっている。これからの社会を生きるにあたり、自身の悩みやストレスを相談する人を持つことや、公的な機関や病院にＳＯＳを発信する勇気を持つことは、自分自身や他人の命を守るために必要な力である。本授業では、ＳＯＳの発信をする大切さを身に付け、そのＳＯＳを受け止め寄り添える大人になり、よりよい社会づくりに貢献していくことの大切さを理解させていきたい。

３　指導計画

１時間目　傾聴「こころが苦しいとき『きようしつ』を意識しよう。」

２時間目　傾聴「人の心に寄り添えるよりよい社会を目指して」**（本時）**

４　学習の展開

（１）本時の目標

・全国の自殺者数の推移等を知り、ＳＯＳを発信することの大切さを理解する。

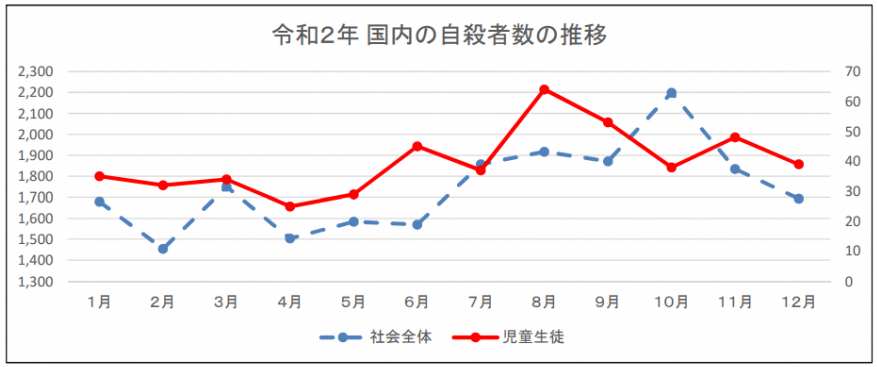
・ＳＯＳを受け止めるために、傾聴のポイントをおさえた聴き方ができるようになる。

（２）本時の展開

流れ	学習内容・活動	指導上の留意点
導入 ５分	**1　前時の学習内容の確認** （１）「きようしつ」の確認 「き」気付いて（危機に気付いて） 「よ」寄り添い（友達に寄り添って） 「う」受け止めて（辛さを受け止めて） 「し」信頼できる大人に 「つ」繋げよう （２）傾聴の確認（話の聞き方「かきくけこ」） 「か」確認 「き」共感 「く」繰り返し 「け」傾聴 「こ」肯定 （３）聴き方の３つのポイント ・うなずきながらゆっくり聴こう ・意見やアドバイスより聴いてくれることがうれしい ・友達の気持ちになって温かく聴こう **2　本時のめあての確認** ・ＳＯＳを発信することの大切さを理解する。 ・ＳＯＳを受け止めるために、傾聴のポイントをおさえた聴き方ができるようになる。	・指定した座席・グループにさせておく。 ・復唱して、「きようしつ」について確認する。 ・前回の授業では、「き」、「よ」、「う」について学習したことを確認する。 ・復唱して、「かきくけこ」について確認する。 ・前時の学習で、傾聴のロールプレイをしたことを確認する。 ・「きようしつ」の「し」と「つ」について学習することを理解させる。 ・ワークシートに本時のめあてを記入させる。
展開 ３５ 分	**3　班ごとに発表する**（１０分） （１） ・全国の自殺者数の推移（１班、２班） ・全国の高校生の自殺者数の推移（３班・４班） （２） ・高校生の自殺者の原因・動機（５班・６班） （３） ・年齢別の自殺者数（７班・８班） ・２０代、３０代の自殺者の原因・動機（９班・１０班） これらのことから、自殺を未然に防ぐために信頼（しんらい）できる人や相談窓口に繋げる（つなげる）ことを考える。	・事前に与えられた資料について調べ、スライドにまとめたものを発表させる。 ・発表の声ははっきりした声で堂々と行わせる。 ・話を聞く時の姿勢を意識させる。 ・必要なことは、メモを取らせる。 ・生徒の発表に対し、必要に応じて補足する。

	4　ＳＯＳの発信先、つなぎ先を考える（１５分） （１）タブレット端末による検索・作業 作業① 悩みやストレスの相談窓口や専門機関にはどのようなものがあるか検索する。 作業② その相談窓口や専門機関はどのような対応をしてくれるか調べ、ワークシートにまとめる。 （２）相談窓口や専門機関について、どのように対応がなされるか理解する。 （３）もしも「消えたいぐらい苦しい」と相談されたときに、どうしたらいいかを考える。 ・ひとりで抱えない ・聞いた話が深刻な場合、信頼できる人や相談窓口に繋げる ・ＳＮＳ上での相談には気を付ける	・社会に出た時、どこに相談すればよいかタブレット端末で検索させる。 ・机間巡視し、検索やまとめに困っている班に助言を行う。 ・調べた内容について、発表させる。また、内容について補足を行う。
	5　社会問題の事例（５分） （１）過労死、パワハラ、セクハラ等から発生するうつ病などの健康問題も多いことを理解する。また、実際にパワハラやセクハラ、過労が原因で自殺した問題についても触れる。 （２）実際に相談窓口や専門機関に相談するか考える。 ・悩みやストレスを抱えた時に、相談することにためらいがある人の割合について理解する。 ・自分自身の「うつ病のサイン」に気づいた時、専門の相談窓口に利用している人の割合について理解する。 ・専門の機関に相談しない理由について理解する。（根本的な解決にはならない、どの窓口に相談すればよいか分からない、精神的な悩みを話すことに抵抗がある。） （３）自身や他人の命を守るためにどうすればよいか考える ・本当に苦しんでいる時はＳＯＳの発信は難しいため、その人の気持ちを考えて寄り添うことが大切である ・自身や他人の命を守るためにも、ＳＯＳを発信する勇気やＳＯＳを受け止める責任を持ち、よりよい社会を作っていく	実際に起きた過労自殺について取り扱う。命を絶ったことの重大さについて、受け止めるような雰囲気・口調で語りかける。 ・自分が苦しんでいる時に、関係機関に相談すると思うか発問する。 ・グラフを提示し、調査の結果から、心が苦しんでいる状況で、ＳＯＳの発信をすることに対するためらいや、多くは根本的な解決にはならないと思い込んでいることを理由に相談がなされていないことに触れる。 自分が苦しんだ時、友達が苦しんでいる時に「きようしつ」を思い出すこと確認する。

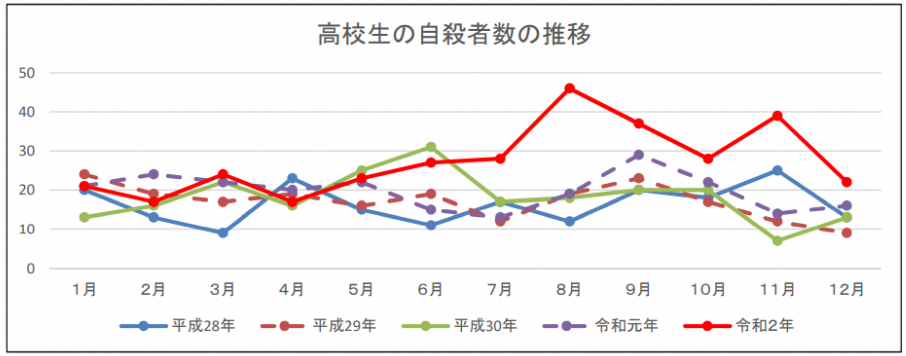
	6　ＳＯＳを発信しやすい傾聴でロールプレイを行う。（５分） （１）シナリオから、苦しんでいる同僚に対してどのような声かけをすればよいか考える。 悩んでいる人にとってうれしいことば ・話してくれてありがとう ・そう思っているんだね ・ＳＯＳを出してくれてありがとう ・一緒に話しに行こう　　など （２）ペアになり話し手と聞き手を決め、ロールプレイを行い、感想を記入する。 聴き方の３つのポイント ・うなずきながらゆっくり聴こう ・意見やアドバイスより、聴いてくれることがうれしい ・友達の気持ちになって温かく聴こう	・どのような声かけをすればよいか、ポイントを伝える。 ・話の聴き方「かきくけこ」を意識した声かけを考えさせる。 ・机間巡視し、どのような声かけをすればよいか困っている生徒に、助言を行う。 ・聴き方の３つのポイントを確認させる。 ・終わった後は生徒同士で労いの声かけを行う。
整理 １０ 分	**7　まとめ**（５分） ・１枚のスライドを見せる そのスライドから、映っている人物の心情を考え、どのように手を差し伸べるか考える。 ・心に雨が降っている人や心に影がある（苦しんでいる人）に対して寄り添える大人になることを理解する。 苦しんでいる人に ・「心に傘をさしてあげよう」 ・「心に明かりを灯してあげよう」 **8　アンケートの記入**（５分） ・グーグルフォームを使用して、アンケートの記入をする。	・スライドに注目させる。 ・ＳＯＳを発信するための周囲の支え方、考え方を理解させる。



令和2年

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
社会全体	1,680	1,454	1,751	1,504	1,585	1,570	1,858	1,917	1,872	2,199	1,835	1,694	20,919
児童生徒	35	32	34	25	29	45	37	64	53	38	48	39	479

厚生労働省「警察庁の自殺統計に基づく自殺者数の推移等」を基に文部科学省において作成
厚生労働省「自殺の統計：地域における自殺の基礎資料」（暫定値）を基に文部科学省において作成



高校生

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
平成28年	20	13	9	23	15	11	17	12	20	18	25	13	196
平成29年	24	19	17	19	16	19	12	19	23	17	12	9	206
平成30年	13	16	22	16	25	31	17	18	20	20	7	13	218
令和元年	21	24	22	20	22	15	13	19	29	22	14	16	237
令和2年	21	17	24	17	23	27	28	46	37	28	39	22	329

厚生労働省「自殺の統計：地域における自殺の基礎資料」（暫定値）を基に文部科学省において作成

令和元年及び令和2年における高校生の自殺者数の原因・動機別表
～原因・動機数における上位10項目～

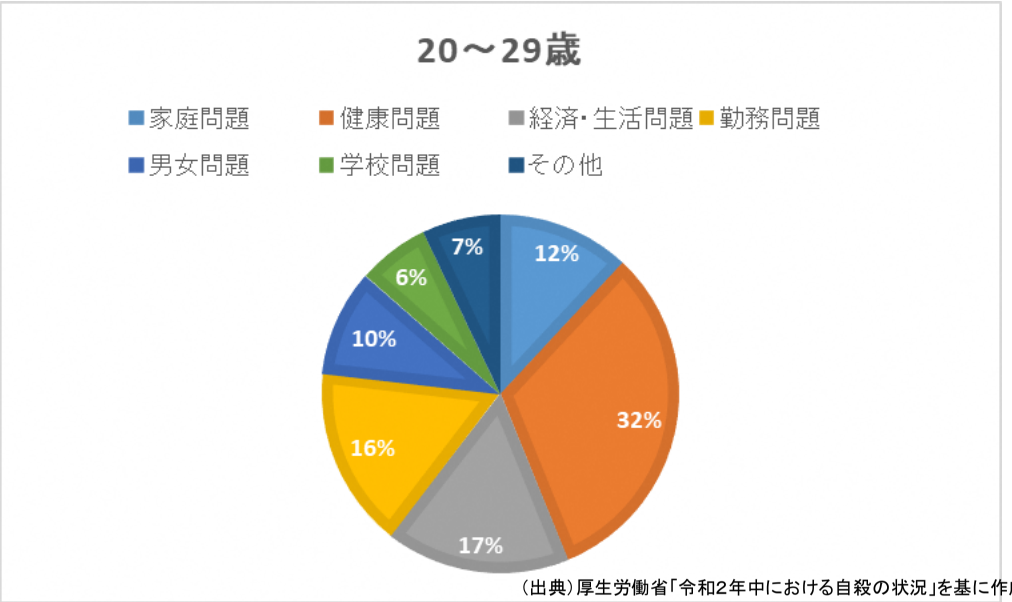
	R1 高校生（総数）			R2 高校生（総数）		
順位	小項目	人数	大項目	小項目	人数	大項目
1	その他進路に関する悩み	33	学校問題	その他進路に関する悩み	44	学校問題
2	学業不振	33	学校問題	学業不振	35	学校問題
3	親子関係の不和	18	家庭問題	病気の悩み・影響（うつ病）	31	健康問題
4	病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	18	健康問題	親子関係の不和	25	家庭問題
5	病気の悩み・影響（うつ病）	17	健康問題	病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	25	健康問題
6	入試に関する悩み	16	学校問題	その他学友との不和	19	学校問題
7	失恋	15	男女問題	失恋	16	男女問題
8	その他学友との不和	13	学校問題	その他家族関係の不和	12	家庭問題
9	家族からのしつけ・叱責	11	家庭問題	入試に関する悩み	11	学校問題
10	その他交際をめぐる悩み	10	男女問題	家族からのしつけ・叱責	10	家庭問題

※同順位の項目が多く表に記載しきれない場合がある。
※小項目の「その他」は除く。
※複数計上あり。
※R2の数値は令和3年2月5日時点の暫定値であり、今後、変わり得る場合があることに留意。
※自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。
（出典）厚生労働省「自殺の統計：各年の状況」及び特別集計を基に文部科学省において作成。

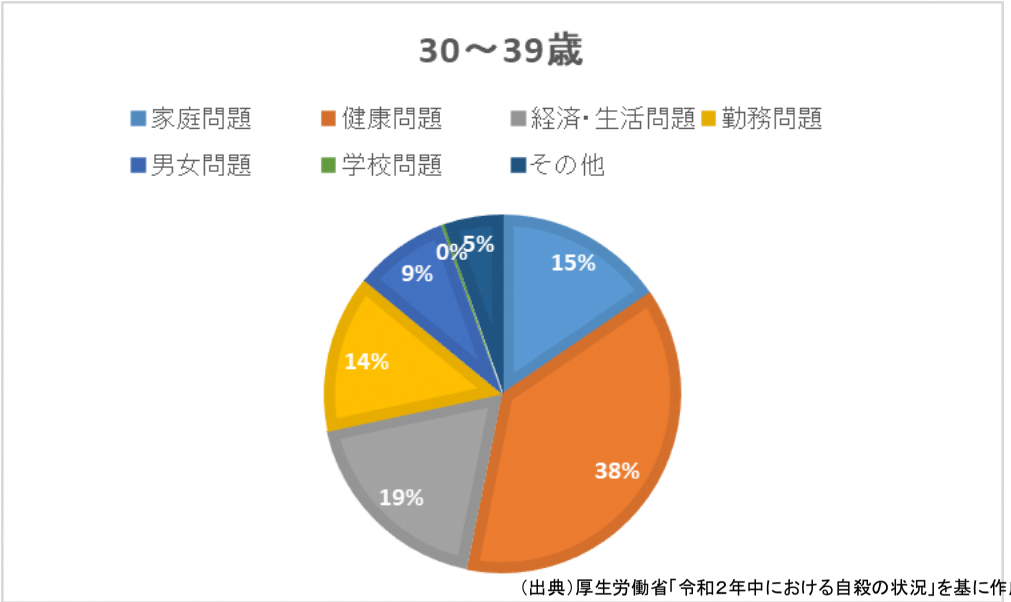
令和2年　年齢階級別、原因・動機別自殺者数

		～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	不詳	合計
	合計	715	2506	2719	3650	3562	2829	2829	2072	0	20882
原因・動機別	家庭問題	142	300	421	585	511	403	420	346	0	3128
	健康問題	166	799	1025	1543	1620	1580	1967	1495	0	10195
	経済・生活問題	16	417	503	676	778	538	238	50	0	3216
	勤務問題	35	409	387	490	418	137	33	9	0	1918
	男女問題	57	241	232	164	71	20	11	3	0	799
	学校問題	234	162	8	1	0	0	0	0	0	405
	その他	65	178	143	191	164	151	160	169	0	1221

（出典）厚生労働省「令和2年中における自殺の状況」を基に作成



（出典）厚生労働省「令和2年中における自殺の状況」を基に作成



（出典）厚生労働省「令和2年中における自殺の状況」を基に作成

ＳＯＳの出し方に関する教育　傾聴「人の心に寄り添えるよりよい社会を目指して」　ワークシート

（　　）科　（　　）年　（　　）組　氏名（　　）

1　本時のめあて

①

②

2　各班の発表についてまとめてみよう

①　全国の自殺者数の推移

②　全国の高校生の自殺者数の推移

③　高校生の自殺者の原因・動機

④　年齢別の自殺者数

⑤　20 代、30 代の自殺者の原因・動機

これらのことから自殺を未然に防ぐために信頼（しんらい）できる人や相談窓口に繋げる（つなげる）ことを考えましょう

3　ＳＯＳの発信先やつなぎ先を考えよう

作業①　悩みやストレスの相談窓口や公共機関にはどのようなものがあるか検索する

作業②　その相談窓口や公共機関はどのような対応をしてくれるか調べ、ワークシートにまとめる

悩みやストレスの相談先

・

・

・

・

・

・

・

どのような対応をしてくれるか

・

・

・

・

・

・

・

4　SOS を発信しやすい傾聴を考え、ロールプレイをしましょう

①シナリオをもとに、自分が A さんだったら B さんにどのような声かけをするか考えましょう。

＜A＞　どうしたの？最近元気ないね。
＜B＞　いや、まぁいろいろ。
＜A＞　僕たち（私たち）同期だし、困っていることあるなら力になるよ。
＜B＞　話してもどうにもならないからさ
＜A＞　話すだけでも気持ちが軽くならないかな。
＜B＞　…実は…。部署のリーダーにすごくにらまれちゃててさ。僕（私）が何やっても気に入らないみたいなんだよね。嫌み言われたり怒鳴られたり…。実家もばあちゃんの介護とかで大変で、心配かけられないし、もう、今すぐ自分が消えてしまえばラクかなって思うこともあるんだよね。
＜A＞「①

」

しかし・・・
＜B＞　でも、相談しても根本的な解決にならないし…。こんなことが続くならいっそのこと消えてしまった方がやっぱり楽だ。
＜A＞「②

」

②ペアを組んで、ロールプレイを行いましょう。

聴き方の３つのポイント
- **うなずきながらゆっくり聴こう。**
- **意見やアドバイスより、聴いてくれることがうれしい。**
- **友達の気持ちになって温かく聴こう。**

話の聴き方「かきくけこ」
か→確認　き→共感　く→繰り返し
け→傾聴　こ→肯定

あなたの聴き方は・・・

5　本日の振り返りをしましょう

・クラスルームにグーグルフォームの URL を載せているので、そこからアンケートの記入をしてください。

【資料2】

SOSの出し方に関する教育

学校生活における自己肯定感と他者理解に関するアンケート　学年間の比較

No	評　価　項　目	①＋② 1学年	①＋② 2学年	①＋② 3学年	①＋② 1学年	①＋② 2学年	①＋② 3学年
		R3　5月			R3　11月		
1	あなたは、毎日の生活に充実感を感じていますか。	93	93	94	94	95	96
2	あなたは、つらい思いをしたとき、誰かに相談できていますか。	75	87	86	75	85	89
3	あなたは、つらい思いをしたとき、相談できる人はいますか。	94	94	93	91	96	95
4	あなたは、誰かが困っているときに助言や手助けをすることができますか。	95	93	93	96	94	96
5	あなたは、周囲の人にほめられたり、認められたりしたことはありますか。	86	90	90	89	93	92
6	あなたは、周囲の役に立っていると思うことはありますか。	67	76	74	70	78	85
7	あなたは、友達と協力して物事に取り組めていますか。	96	93	94	96	93	97
8	あなたは、周囲の人をほめたり、認めたりしたことはありますか。	98	96	97	97	97	99
9	あなたは、自分のことが好きですか。	65	75	71	65	78	79
10	あなたは、得意なことや自慢できることがありますか。	72	78	77	72	79	83
11	あなたは、自分のことを大切な人だと思いますか。	74	83	85	79	87	89
12	あなたは、学校の中で命のすばらしさや大切さを感じることはありますか。	79	81	87	85	88	86
13	あなたは、学校の授業や活動を通して学んでいることや考え方が、社会人になってから活用できると思いますか。	95	91	95	95	93	95
14	あなたはこれまでに、ものづくりをして人の役に立ったと感じたことがありますか。	64	63	73	69	71	81
15	あなたは、高校在学中にものづくりで役に立ってみたいと思いますか。	89	76	82	88	80	83
16	あなたは社会人になってから、人の役に立つ仕事ができるようになりたいですか。	98	96	98	98	97	99

70%未満

70～80%未満

SOSの出し方に関する教育

学校生活における自己肯定感と他者理解に関するアンケート

全学年

No	評　価　項　目	①＋② R2 6月	①＋② R2 12月	①＋② R3 5月	①＋② R3 11月	推移	
1	あなたは、毎日の生活に充実感を感じていますか。	94	94	93	94	―	
2	あなたは、つらい思いをしたとき、誰かに相談できていますか。	84	86	83	83	↓	
3	あなたは、つらい思いをしたとき、相談できる人はいますか。	94	94	93	94	―	
4	あなたは、誰かが困っているときに助言や手助けをすることができますか。	93	93	93	95	↑	
5	あなたは、周囲の人にほめられたり、認められたりしたことはありますか。	88	91	89	91	↑	
6	あなたは、周囲の役に立っていると思うことはありますか。	68	72	72	78	↑	※10%上昇
7	あなたは、友達と協力して物事に取り組めていますか。	94	94	94	95	↑	
8	あなたは、周囲の人をほめたり、認めたりしたことはありますか。	97	96	97	98	↑	
9	あなたは、自分のことが好きですか。	67	73	71	74	↑	※7%上昇
10	あなたは、得意なことや自慢できることがありますか。	71	75	76	78	↑	※7%上昇
11	あなたは、自分のことを大切な人だと思いますか。	77	80	81	85	↑	※8%上昇
12	あなたは、学校の中で命のすばらしさや大切さを 感じることはありますか。	80	85	82	86	↑	※6%上昇
13	あなたは、学校の授業や活動を通して学んでいることや考え方が、社会人になってから活用できると思いますか。	92	94	94	94	↑	
14	あなたはこれまでに、ものづくりをして人の役に立ったと感じたことがありますか。	64	69	67	74	↑	※10%上昇
15	あなたは、高校在学中にものづくりで役に立ってみたいと思いますか。	81	82	83	84	↑	
16	あなたは社会人になってから、人の役に立つ仕事ができるようになりたいですか。	98	97	98	98	―	

SOSの出し方に関する教育

学校生活における自己肯定感と他者理解に関するアンケート

1学年
（R3入学）

No	評　価　項　目	R3 ①＋② 5月	R3 ①＋② 11月	推移	
1	あなたは、毎日の生活に充実感を感じていますか。	93	94	↑	
2	あなたは、つらい思いをしたとき、誰かに相談できていますか。	75	75	―	
3	あなたは、つらい思いをしたとき、相談できる人はいますか。	94	91	↓	
4	あなたは、誰かが困っているときに助言や手助けをすることができますか。	95	96	↑	
5	あなたは、周囲の人にほめられたり、認められたりしたことはありますか。	86	89	↑	
6	あなたは、周囲の役に立っていると思うことはありますか。	67	70	↑	
7	あなたは、友達と協力して物事に取り組めていますか。	96	96	―	
8	あなたは、周囲の人をほめたり、認めたりしたことはありますか。	98	97	↓	
9	あなたは、自分のことが好きですか。	65	65	―	
10	あなたは、得意なことや自慢できることがありますか。	72	72	―	
11	あなたは、自分のことを大切な人だと思いますか。	74	79	↑	※5%の有意差
12	あなたは、学校の中で命のすばらしさや大切さを 感じることはありますか。	79	85	↑	※6%の有意差
13	あなたは、学校の授業や活動を通して学んでいることや考え方が、社会人になってから活用できると思いますか。	95	95	―	
14	あなたはこれまでに、ものづくりをして人の役に立ったと感じたことがありますか。	64	69	↑	※5%の有意差
15	あなたは、高校在学中にものづくりで役に立ってみたいと思いますか。	89	88	↓	
16	あなたは社会人になってから、人の役に立つ仕事ができるようになりたいですか。	98	98	―	

SOSの出し方に関する教育

学校生活における自己肯定感と他者理解に関するアンケート

2学年
（R2入学）

No	評　価　項　目	R2 ①＋② R2 6月	R2 ①＋② R2 12月	R3 ①＋② R3 5月	R3 ①＋② R3 11月	推移	
1	あなたは、毎日の生活に充実感を感じていますか。	95	94	93	95	―	
2	あなたは、つらい思いをしたとき、誰かに相談できていますか。	86	87	87	85	↓	
3	あなたは、つらい思いをしたとき、相談できる人はいますか。	93	95	94	96	↑	
4	あなたは、誰かが困っているときに助言や手助けをすることができますか。	93	94	93	94	↑	
5	あなたは、周囲の人にほめられたり、認められたりしたことはありますか。	91	91	90	93	↑	
6	あなたは、周囲の役に立っていると思うことはありますか。	71	72	76	78	↑	※7%上昇
7	あなたは、友達と協力して物事に取り組めていますか。	95	93	93	93	↓	
8	あなたは、周囲の人をほめたり、認めたりしたことはありますか。	96	95	96	97	↑	
9	あなたは、自分のことが好きですか。	70	72	75	78	↑	※8%上昇
10	あなたは、得意なことや自慢できることがありますか。	72	72	78	79	↑	※7%上昇
11	あなたは、自分のことを大切な人だと思いますか。	74	77	83	87	↑	※13%上昇
12	あなたは、学校の中で命のすばらしさや大切さを 感じることはありますか。	78	87	81	88	↑	※10%の有意差
13	あなたは、学校の授業や活動を通して学んでいることや考え方が、社会人になってから活用できると思いますか。	93	93	91	93	―	
14	あなたはこれまでに、ものづくりをして人の役に立ったと感じたことがありますか。	63	61	63	71	↑	※8%の有意差
15	あなたは、高校在学中にものづくりで役に立ってみたいと思いますか。	90	83	76	80	▼	※10%の有意差
16	あなたは社会人になってから、人の役に立つ仕事ができるようになりたいですか。	98	95	96	97	↓	

SOSの出し方に関する教育

学校生活における自己肯定感と他者理解に関するアンケート

3学年
（R1入学）

No	評　価　項　目	R2 ①＋② R2 6月	R2 ①＋② R2 12月	R3 ①＋② R3 5月	R3 ①＋② R3 11月	推移	
1	あなたは、毎日の生活に充実感を感じていますか。	95	93	94	96	↑	
2	あなたは、つらい思いをしたとき、誰かに相談できていますか。	81	85	86	89	↑	※8%の有意差
3	あなたは、つらい思いをしたとき、相談できる人はいますか。	94	93	93	95	↑	
4	あなたは、誰かが困っているときに助言や手助けをすることができますか。	94	93	93	96	↑	
5	あなたは、周囲の人にほめられたり、認められたりしたことはありますか。	84	90	90	92	↑	※8%の有意差
6	あなたは、周囲の役に立っていると思うことはありますか。	65	67	74	85	↑	※20%の有意差
7	あなたは、友達と協力して物事に取り組めていますか。	94	95	94	97	↑	
8	あなたは、周囲の人をほめたり、認めたりしたことはありますか。	96	96	97	99	↑	
9	あなたは、自分のことが好きですか。	66	70	71	79	↑	※13%の有意差
10	あなたは、得意なことや自慢できることがありますか。	74	71	77	83	↑	※9%の有意差
11	あなたは、自分のことを大切な人だと思いますか。	80	79	85	89	↑	※9%の有意差
12	あなたは、学校の中で命のすばらしさや大切さを 感じることはありますか。	81	85	87	86	↑	※5%の有意差
13	あなたは、学校の授業や活動を通して学んでいることや考え方が、社会人になってから活用できると思いますか。	89	94	95	95	↑	※6%の有意差
14	あなたはこれまでに、ものづくりをして人の役に立ったと感じたことがありますか。	59	64	73	81	↑	※22%の有意差
15	あなたは、高校在学中にものづくりで役に立ってみたいと思いますか。	84	75	82	83	↓	
16	あなたは社会人になってから、人の役に立つ仕事ができるようになりたいですか。	97	98	98	99	↑	